

2018年3月期
第3四半期決算(参考資料)
(2018年2月6日)

 **日清食品ホールディングス株式会社**
(2897)

2017年度
経営方針

4期連続の過去最高売上の更新を掲げ、さらに持続的成長への基盤を固める

国内：収益力のさらなる強化、将来の経営基盤強化のための投資の実施
海外：カップヌードル戦略を基軸として、各地域で大幅増収と増益を目指す

連結：増収・増益(営業利益、経常利益、四半期純利益)

調整後営業利益 増益

国内：

- 日清食品は、引き続きカップめん、ライス群が売上を牽引し増収。営業利益は増収効果、原材料コスト削減、広告宣伝費減の影響が大きく増益。
- 明星食品は、カップめんの売上が回復傾向で増収。営業利益は生産部門損益等の改善で増益。
- 低温事業は、冷凍事業が売上・営業利益を牽引し増収・微増益
- 菓子・飲料事業は、日清シスコがセグメントの売上増に大きく寄与。営業利益はシスコ、ヨークの償却費増などの影響もあり減益。

海外：

- 米州地域は、為替効果と米国の売上増で増収。営業利益はブラジルが牽引し増益。
- 中国地域は、MCMS社の連結効果、香港・大陸の売上増、為替効果などで増収、営業利益は増収効果が償却費増等をカバーし増益。
- アジア地域は、インドの減収を、主にインドネシアの売上増等でカバーし増収。赤字は拡大。
- EMEA地域は欧州・トルコともに増収。営業利益はハンガリー工場の立上げの遅れが影響し赤字。

第3四半期
の
振り返り

国内事業は即席めん事業を中心に増収増益に貢献する一方で、海外事業は市場環境の影響もあり、想定よりも成長のスピードは緩やか。
引き続き、期初事業計画の達成を目指す。

第3四半期
総括

単位:億円

	2017年度			2016年度
	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
売上高	3,867	+169	+4.6%	3,698
営業利益	269	+52	+23.8%	217
調整後営業利益*	264	+14	+5.8%	250
経常利益	320	+67	+26.5%	253
親会社株主に帰属する 四半期純利益	238	+40	+19.9%	199
営業利益率	7.0%	-	+1.1pt	5.9%
経常利益率	8.3%	-	+1.4pt	6.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益率	6.2%	-	+0.8pt	5.4%

* 調整後営業利益＝営業利益－退職給付会計の影響

セグメント別 売上実績

単位：億円	2017年度			2016年度
	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
即席めん事業	2,065	+39	+1.9%	2,026
日清食品	1,756	+37	+2.1%	1,720
明星食品	309	+3	+0.9%	306
低温事業	483	+17	+3.7%	466
菓子・飲料事業	389	+4	+0.9%	385
国内その他	31	+2	+6.6%	29
国内 計	2,967	+62	+2.1%	2,905
米州地域	471	+39	+9.0%	432
中国地域	316	+55	+21.1%	261
アジア地域	73	+6	+9.2%	67
EMEA地域	40	+7	+21.3%	33
海外 計	900	+107	+13.5%	793
連結売上高	3,867	+169	+4.6%	3,698

セグメント別 売上貢献度

(億円)

前期売上高

3,698

日清食品

37

明星食品

3

低温事業

17

菓子・飲料事業

4

国内その他

2

米州地域

39

中国地域

55

アジア地域

6

EMEA地域

7

今期売上高

3,867



プラス要素



マイナス要素

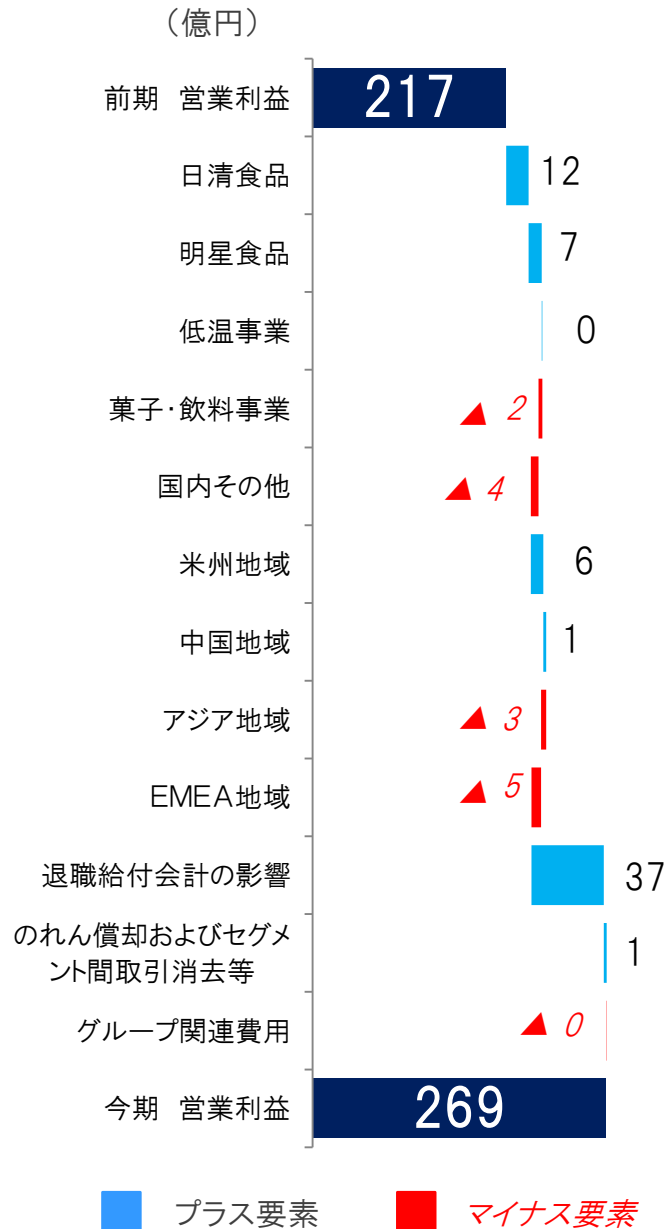
社名	増減	要因
日清食品	+37	カップめん(+2%):昨年度の前期比+4%という高いハードルを、カップヌードルナイスなどの新製品、麺職人リニューアル等で上乘せ。カップヌードル、どん兵衛も前年を超える着地。袋めん(-3%):上期は-5%と苦戦したが、「お椀」シリーズの発売効果もあり、10-12月には+2%となった。その他(+50%):ぶっこみ飯、カレーメシの増収等。
明星食品	+3	カップめん(+1%):夜店の焼そばが回復傾向、またチャルメラカップ、ぶぶか等が売上を牽引。袋めん(+1%):上期の貯金を生かして増収。
低温	+17	チルド(+0%):市販用商品が伸び悩んだが、市販用以外の伸びもあり前年実績並みで着地。冷凍(+6%):市販用は引き続きパスタ、ラーメンが好調で増収。業務用、宅配ルートも増収。
菓子・飲料	+4	シスコ(+3%):シリアル事業、菓子事業ともに好調を維持し増収。ヨーク(-1%):CVSの飲料棚縮小の影響が響き減収。ぼんち(-0%):10-12月で上期の遅れを取り戻し、前年並で着地。
国内その他	+2	
米州地域	+39	*為替影響額(+30) 米国(+3%):CUP NOODLESの売上増、TOP RAMENの売上増で増収。メキシコ(+7%):販売数量は微増、値上げ効果が貢献し増収。ブラジル(+0%):昨年の新カップヌードル発売影響等で前年並で着地。
中国地域	+55	*為替影響額(+12) 香港は、MCMS(卸売業)の新規連結効果が大きく大幅増収(+27%)。大陸はエリア拡大効果なども貢献し大幅増収(+7%)
アジア地域	+6	*為替影響額(+4)売上額が多い順 インド:減収、シンガポール:微増収、タイ:増収、インドネシア:大幅増収、ベトナム:増収
EMEA地域	+7	*為替影響額(+2) 欧州地域:「Soba」拡大、プレミアムフーズのOEM受注で増収。トルコ:ラーメンジャンルへの参入で増収。
合計	+169	*為替影響額(+47)

※日清食品、明星食品の()内の前年比は、カテゴリー別の前年比 ※ぼんちの昨年実績は1-9月、今期は4-12月
 ※海外のコメント、前年比はすべて現地通貨ベースに基づく

セグメント別 営業利益実績

単位:億円	2017年度			2016年度
	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
即席めん事業	241	+18	+8.3%	223
日清食品	223	+12	+5.4%	212
明星食品	18	+7	+62.4%	11
低温事業	18	+0	+1.6%	18
菓子・飲料事業	21	▲2	▲8.5%	22
国内その他	9	▲4	▲30.7%	13
国内計	288	+13	+4.6%	276
米州地域	17	+6	+61.0%	11
中国地域	23	+1	+6.6%	22
アジア地域	△10	▲3	-	△7
EMEA地域	△4	▲5	-	1
海外計	26	+0	+1.3%	26
調整額計	△45	+39	-	△84
連結営業利益	269	+52	+23.8%	217
(参考)調整後営業利益	264	+14	+5.8%	250

セグメント別 営業利益貢献度



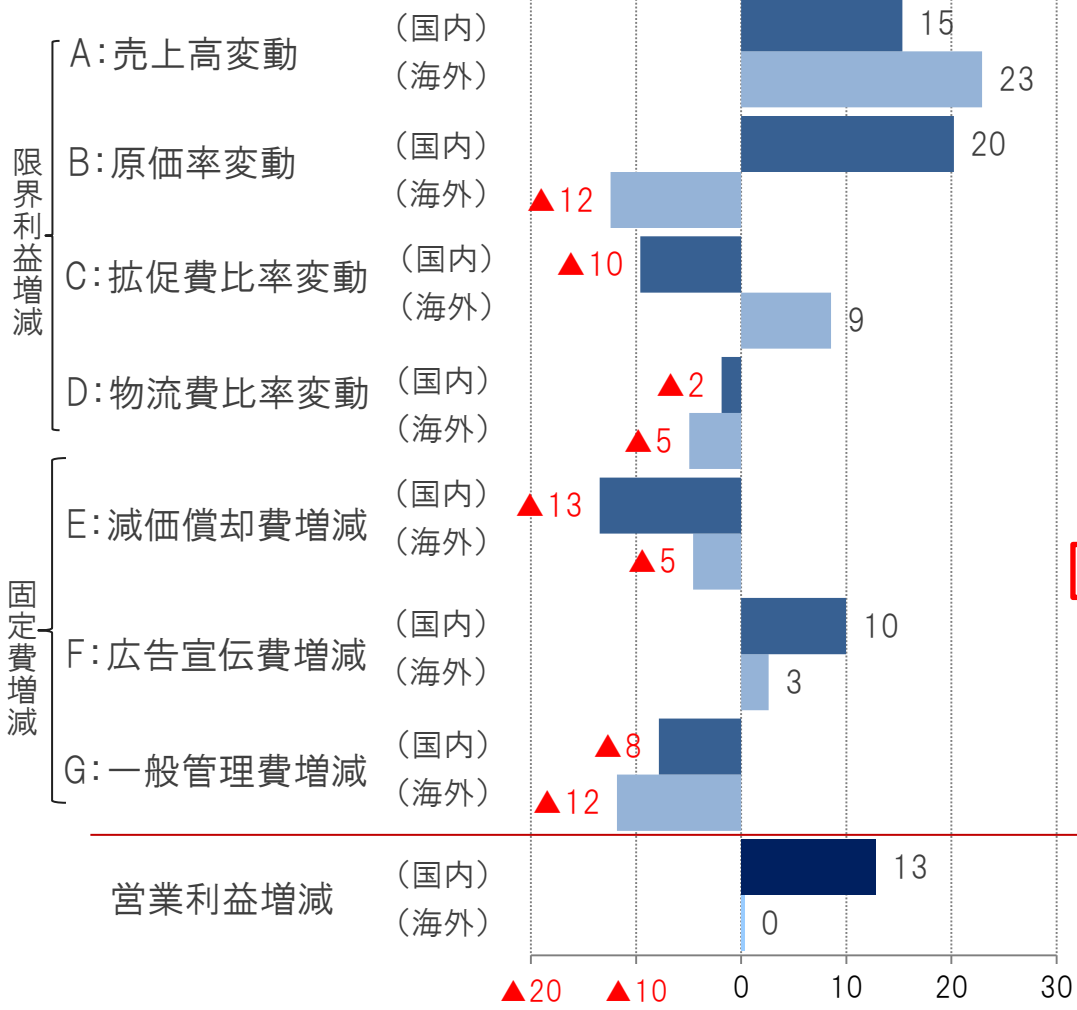
社名	増減	要因
日清食品	+12	+ 売上増の効果、原価率の減少、広告宣伝費の未使用 - 拡促費比率増(昨年の震災影響の反動)、減価償却費増、一般管理費増 ※広告宣伝費の未使用分は4Qで消化予定
明星食品	+7	+ 原価率の減少(生産効率のアップ)、拡促費比率の減少 - 減価償却費・一般管理費の微増など。
低温	+0	チルド:市販用商品の伸び悩み、一般経費の増等で減益。 冷凍:売上増、生産効率向上による原価率の改善等で増益。
菓子飲料	+2	シスコ:販売構成変化による販促費増と償却費増の影響で微減益。 ヨーク:償却費増、拡促費増により減益。ぼんち:微減益。
国内その他	+4	償却費増、一般管理費増等で減益。
米州地域	+6	*為替影響額(+2) 米国:物流費等増で損益悪化。メキシコ:マーケ費用、管理費用増等で損益悪化。ブラジル:価格改定効果、マーケ費用等の削減もあり大きく増益。
中国地域	+1	*為替影響額(+1) 香港は出前一丁の販売が好調でライン増設の償却費増をカバーし増益。大陸は浙江工場稼働による償却増等を売上でカバーできず減益。
アジア地域	+3	*為替影響額(▲1)利益額が多い順 シンガポール:減益、タイ:黒字化、ベトナム:ほぼ前年並みの赤字幅、インド:赤字幅拡大、インドネシア:赤字幅拡大。
EMEA地域	+5	*為替影響額(+0) 欧州:ハンガリー工場立上げの遅れによる費用が大きく発生し赤字に。 トルコ:売上拡大効果もあり赤字縮小。
調整額	+39	主に退職給付会計の影響(+37)
合計	+52	*為替影響額(+2)

※海外のコメントはすべて現地通貨ベースに基づく

営業利益 増減分析 / 連結 (国内・海外)

前期比較

(単位:億円)



国内

- 原価率変動
 - + 原材料コスト削減(+18)、品種構成変化の影響 等
 - 事業ミックス変化の影響 等
- 拡促費比率変動
 - 昨年の震災影響による拡促費減の反動 等
- 減価償却費変動
 - 昨年の償却方法変更による影響、日清ヨーク関東工場の償却費増 等
- 広告宣伝費増減
 - + 宣伝費の一部未使用(主に日清食品)の影響 等
- 一般管理費増減
 - グループ各社管理費増 等

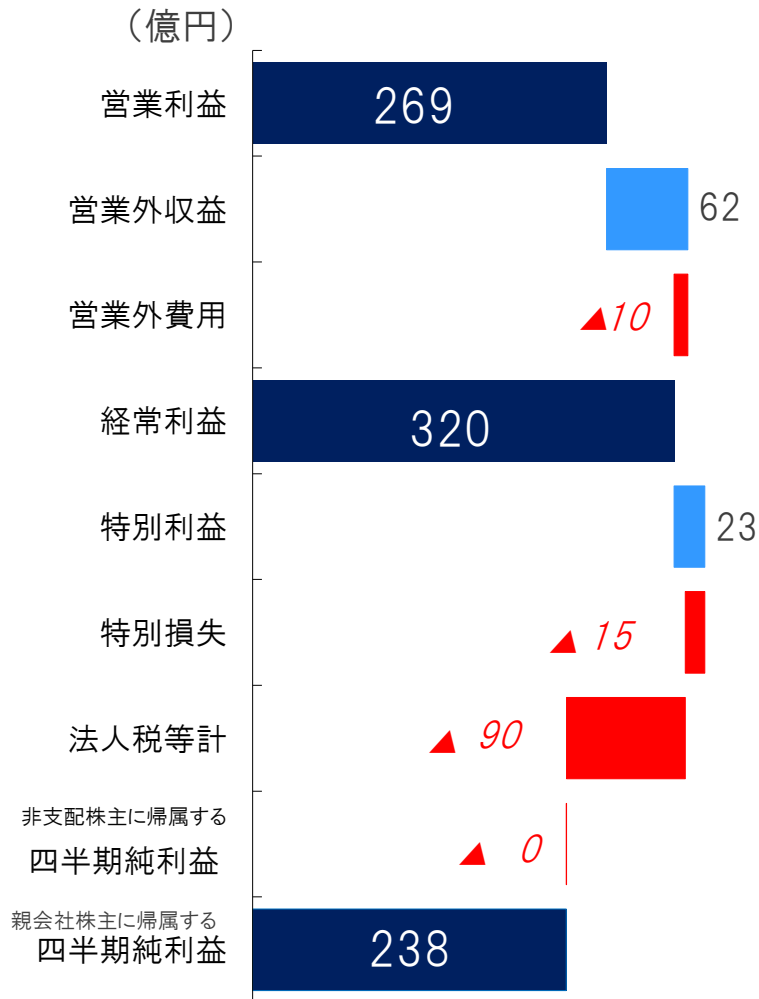
海外

- 原価率変動
 - 香港MCMS社新規連結による率増加、欧州ハンガリー工場の立上げ時のロス 等
- 拡促費比率変動
 - + 主に香港MCMS社新規連結による率減少 等
- 物流費比率変動
 - 主に米国における物流費高騰の影響 等
- 減価償却費
 - 中国(袋めんライン、浙江工場)、ハンガリー工場 等
- 一般管理費
 - ブラジル、中国、欧州の管理費増 等

* 「調整額」として別途 前年比+39億円の差異が発生



営業外損益、特別損益



■ プラス要素 ■ マイナス要素

主要要因

()内、前年実績 (単位:億円)

■ 営業外収益	62(51)
● 受取利息	9 (6)
● 受取配当金	13 (14)
● 有価証券売却益	9 (13)
● 持分法利益	20 (12)
● その他	11 (6)
■ 営業外費用	10(15)
● 支払利息	3 (3)
● 為替差損	0 (8) (為替差損発生)
● その他	7 (4)
■ 特別利益	23(73)
● 固定資産売却益	8 (1)
● 投資有価証券売却益	11(68) (小野薬品工業株式売却)
● 受取保険金	4 (3) ブラジル火災等保険受取
● その他	0 (1)
■ 特別損失	15(30)
● 固定資産売却損	4 (1)
● 減損損失	2 (6)
● 火災による損失	- (5) (ブラジル火災発生)
● 工場閉鎖損失	1 (5) (上海工場閉鎖)
● その他	8(13) (契約変更による精算金等)

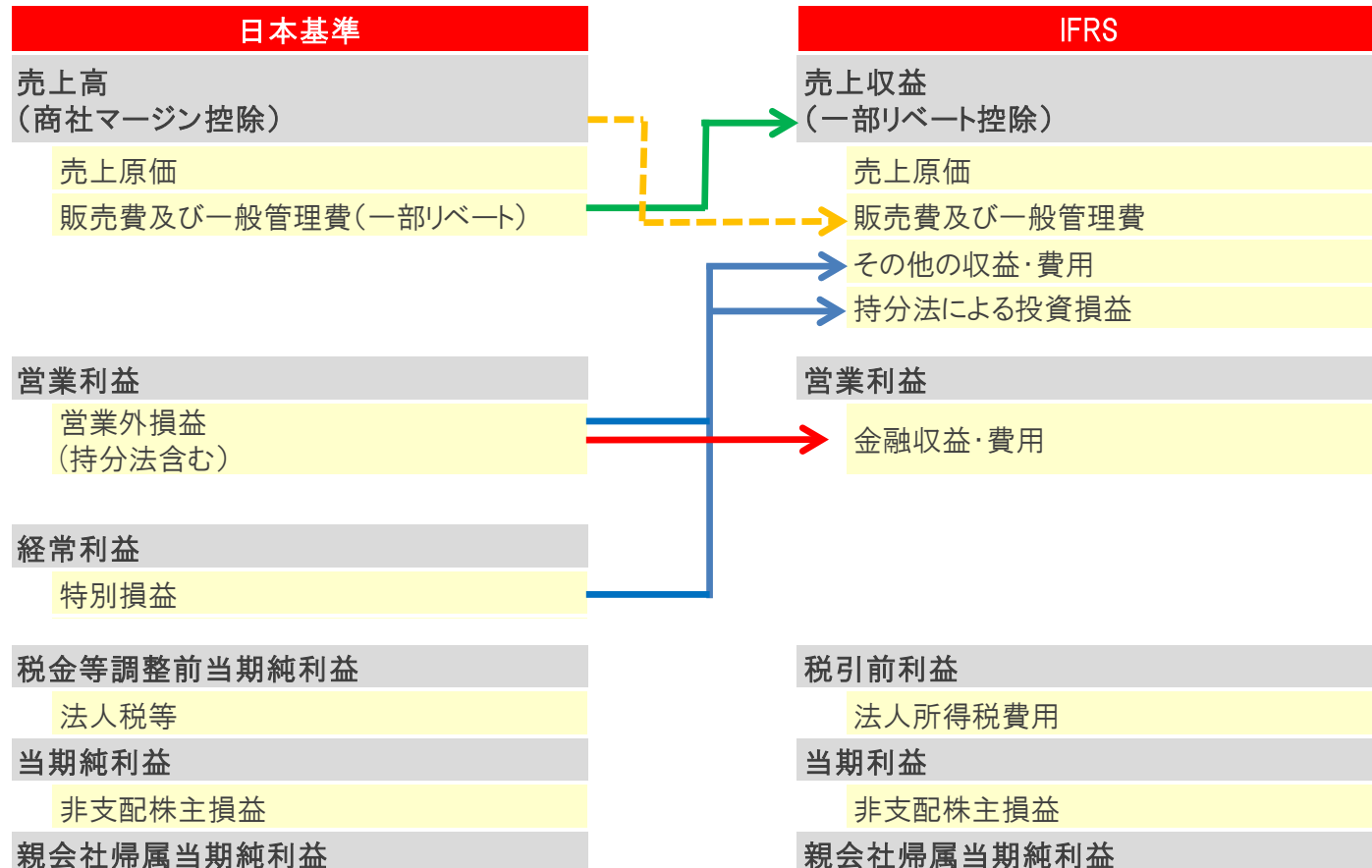
【特記事項】 IFRS適用に伴う会計処理の変更に関して

- 早ければ2019年3月期 第1四半期決算を目途にIFRS適用を検討しています。

IFRSを導入することによる主な影響

- リベートの一部売上控除
- 「持分法による投資損益」を営業外から営業内へ

PLの変更イメージ



*主要なIFRS調整のみを示しています。

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場的大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。



日清食品ホールディングス株式会社

(ご参考) 資料の表記について

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算説明会資料」に掲載しています。
<http://www.nissin.com/jp/ir/library/>
- この資料の金額は、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等があわない場合があります。
- 国内事業会社は、2017年4月1日～2018年3月31日を「2017年度」とします。
※ただし、ぼんちは今期から決算期が変更となっており、2016年1月1日～2016年12月31日が「2016年度」となります。
- 海外エリアは原則として、2017年4月1日～2018年3月31日を「2017年度」とします。
※ただし、タイ、インドネシア、トルコは、2017年1月1日～2017年12月31日を「2017年度」とします。
※また、コロンビア、シンガポール、ベトナム、ドイツ、ハンガリーは、今期から決算期が変更となっており、2016年1月1日～2016年12月31日が「2016年度」となります。
- 売上・利益の「増減率」は決算短信と同じ±%表記を適用しています。
- 資料中の三角表記について：絶対値のマイナスは△、増減のマイナスは▲で表記しています。
- 海外の関連会社の収益・費用は累計期間の期中平均為替レートを適用しています。
- 「スライドNo.」は右上に付記しています。